

# 一般質問

## 「市政ここが聞きたい」

8月29日(木)

### 直正公生誕200年強力に取り組み



永渕 義久

①徴古館、鍋島報効会との連携にもう一步踏み込むべきでは②収蔵品の保存や活用面での協力も協定に盛り込んで③来年は直正公生誕200年の節目。鍋島報効会等と連携して記念事業に強力に取り組んで④記念事業への市長の思い

は。

**答弁** ①来年は鍋島直正公生誕200年の節目の年に当たり、さらに連携を深め、協力、支援していきたい②鍋島報効会と市との間の協定には、同会の歴史的資産等を活用する事業に市が協力することも盛り込まれており、引き続き協力したい③先般鍋島報効会、佐賀青年会議所、県、市、市教委などが集まり、記念事業に取り組むことを確認し

### 青少年センター、建替えて次世代へ



白倉 和子

青少年センターは「居場所」づくり。気軽に集える雰囲気と施設の充実が必要。①22年6月質問後の施設の充実策②不登校の生徒への役割③事業内容の検討に若者の声の反映を④耐震やバリアフリーの現況⑤移転も含め、建替えの検討を。

**答弁** ①利用案内のパンフレットの作成・配布や青少年支援団体等との連携を強化②適応指導教室「くすの実」を拠点とし、ニーズに即した対応、見直しを行いつつ、その活用を促す③青少年からニーズを聞くことは重要。事業実施に当たり、委員会が必要な際は、若者代表を入れる検討をしたい④1階トイレをバリアフリー化した。エレベーターはない。耐震については、耐力不足で耐震補強が困難と診断された⑤今後のセンターの機能等について、移転も含め検討したい。  
◆その他◆土地改良事業について(地域農業水利施設ストックマネジメント事業)



青少年センター

### コミュニティ・スクールを増やせ



福井 章司

た④直正公は佐賀の偉人の代表格であり、関係団体と連携して、後世につなげるようなメモリアル的なことができればと考えている。  
◆その他◆島義勇の顕彰について/夜間における市民の運動(ウォーキング、ランニング)の推進について

①全国のコミュニティ・スクールの数は②県内のこれまでの経緯は③市は現状をどう評価するか④コミュニティ・メンバーの維持拡大策は⑤運営協議会への財政補助ができないか⑥市はコミュニティ・スクールを増やす考えはあるか。

**答弁** ①本年4月現在、

全国で1570校②県内には11校。うち本市には小学校2校、中学校1校③学校と保護者・地域との双方の関係が構築されてきている④学校と協働し、できるだけ多くの方々に学校運営を支援してもらえよう努力していきたい⑤よりよい運営ができるよう今後の予算については十分検討していきたい⑥先進事例である城南中校区の成果を他地区の学校に波及させて充実に図る一方、地域の実情等に



英語の絵本の読み聞かせをする赤松グローバルコミュニティ

応じた学校運営のあり方も大事にしていきたい。  
◆その他◆ILC誘致について/郷土研究誌の活用について

### ゆめ・ぼけつとを 北部や南部にも！



山田誠一郎

①ゆめ・ぼけつとの現在の課題と問題点は②課題をクリアするために、現在の人員体制で対応できるのか③今後どういう展開を考えているのか④北部や南部にも同様の施設が必要ではないのか⑤開設から6年間で

経過したが、その総括を。

**答弁** ①子育て支援施設やサークル等を知らない市民への周知の強化と多様化する相談内容への適切な対応が挙げられる②当面は職員の資質向上を図ることで対応可能と考える③市内の子育て支援施設・関係者等とのネットワークを構築し、情報収集・発信の拠点としたい④今後、子ども・子育て支援の新制度に向けた



ゆめ・ぼけつと

ニーズ調査を予定しており、その結果を受けて検討したい⑤利用者から寄せられた声からも成果は確実に出ていると考える。さらに取り組みを強化していきたい。

## 8月30日(金)

### 市長の政治 姿勢を問う



山下 明子

(1)消費税増税、社会保障改悪の動きの中で「住民の暮らしを守る防波堤」としての市長の認識は(2)国保税引き下げのための一般会計からの繰り入れ(3)子ども医療費助成の拡充(4)地域経済振興基本条例の制定(5)原発ゼロについての見解は。

**答弁** (1)常に市民の安心、安全の実現を第一に考え、住んでよかった、住み続けたいと、全ての市民に愛着を持ってもらえるように思いを込めて行政を進めていく(2)①財政状況から、国保税引き下げのための毎年一定割合の繰り入れは当面できない②周辺市町の状況を見ながら検討する時期にある③条例制定よりも、他都市の施策等を積極的に参酌し、実質的な効果を求めて

いく④原発に依存しない生活が理想だが、市民の実際の生活、不安等を考えると、当面はやむを得ない。

◆その他◆国保減免制度の拡充について／熱中症対策について

いく④原発に依存しない生活が理想だが、市民の実際の生活、不安等を考えると、当面はやむを得ない。

◆その他◆国保減免制度の拡充について／熱中症対策について



佐賀市役所本庁舎

### 水道料金の引き 下げを求める



中山 重俊

水道料金が高いとの声が多い中、前年度の利益剰余金は17億4600万円あり、給水世帯数7万7800で割ると1世帯あたり2万2800円となる。仮に各世帯へ1000円還元しても8000万円程度である。料金を引き下げられないか。

**答弁** 水道事業運営にお

いては、約59億6000万円の起債に対する返済等もあるため、将来の全体的な事業を見ながら、健全な運営に努め、その中で利益剰余金の活用も行っている。また、以前大口利用者の料金引き下げを実施してきた経過もあるため、今の段階で剰余金を充てて使用料金を引き下げるといったことは考えていない。将来、料金体系の見直しや水需要を見据えた水道事業の健全経営という観点からいろいろと

研究はしていきたいと考えている。

◆その他◆公立学校の耐震対策／住宅リフォーム緊急助成事業の継続



佐賀市上下水道局

### ゆめ・ぼけつと多 目的室の移転は？



福島 龍一

結果的には、婦人科医院の配慮により移転は回避されたが、移転を決定していく過程で、現場検証も行わず、利用者との協議もないままに決定したのはなぜか。市の子育て支援政策との整合性も取れていないと思うが、市長の見解を問う。

**答弁** メリットとデメリットを検討した結果、ゆめ・ぼけつとの多目的室の移転はやむを得ないと判断した。そういう中でいろいろ経緯があるが、意見交換や相手の方の意向調査が十分であったこと等が出てきた。そういう点は大きな反省材料としなければならない。今回、最終的には何とか決着していただいたが、その過程の部分は今後に生かすと同時に、今回ご迷惑

をかけたことについておわびを申し上げたい。

◆その他◆富士大和温泉病院に緩和ケア病棟を

をかけたことについておわびを申し上げたい。



## 騒音問題への対策改善を



本田 耕一郎

騒音規制法による基準を  
超えた騒音に対する市の対  
策について①継続中の案件  
に対する対応はどうか②な  
っているのか③いつまでにど  
のように行うのか④窓口での  
相談がたらい回しにならない  
ように。

**答弁** ①指摘の案件につ  
いては平成22年6月に最初  
の相談があり、ことし3月  
に再び相談があった。当時、  
現地調査は行ったが、事業  
所への指導が不十分であっ  
たため解決できていない。

現在、継続して指導を行っ  
ている②改善計画書をこと  
し9月中旬までに提出し、  
10月中旬までにそれを実行  
するよう指導している③受  
付は支所であつたり本庁で

あつたりするが、問題意識  
は共有している。本庁だか  
ら支所だからということど  
はなく、市役所として対応  
すべき問題だと思つている。  
◆その他◆交通安全につい  
て



## ラウンドアバウト 導入の検討を



山下 伸一

ラウンドアバウトとは、  
交差点の中央に円形地帯が  
設けられた交差点の一種。  
信号機設置が不要なことな  
どから、安全性、円滑性、  
環境性、経済性、自立性に  
優れている。佐賀市として  
も、ラウンドアバウトの設  
置を検討してはどうか。

**答弁** ラウンドアバウト

交差点の導入には、直径が  
30〜40mの円形の用地が  
必要となり、用地取得の面  
で多くの困難を伴うことが  
予想され、これまで具体的  
な検討を行ったことがない。  
既存の交差点にラウンドア  
バウトを導入することは、  
まだまだ困難であるが、新  
しく計画をする場合は、シ  
ンボリックな交通広場をつ  
くるなど、街づくりを計画  
するには有効な手段と考  
える。今後必要に応じてラウ  
ンドアバウト交差点の導入



長野県飯田市のラウンドアバウト

を検討の一つの選択肢とし  
て考えて行きたい。  
◆その他◆街なかの賑わい  
づくり／来庁者に対する配  
慮を／パーキングパーミッ  
ト受付窓口設置を

## 9月2日(月)

## 地域支え合い活動 の拠点整備を!



松永 憲明

今後、少子高齢化が益々  
進展し、高齢者の大幅増が  
見込まれる中、誰もが安心  
して生活できる地域を創つ  
ていくため①公営住宅での  
拠点整備状況と今後の考え  
②地域支え合い体制の取り  
組み状況③小学校区地域を  
対象とした拠点整備は。

**答弁** ①現在、市営住宅  
と福祉施設の併設や合築の  
計画は持っていない。今後、  
必要と判断されれば可能と  
考える②身近な相談所とし  
て市内15カ所に地域包括支  
援センターを設置、地域で  
の見守り体制構築のため、  
おたっしや本舗と742事  
業所の協力による見守り  
ネットワーク事業を実施、  
交流活動として老人福祉セ  
ンターや校区公民館でふれ  
あいサロンを開催③地域の



支え合い体制や人口、面積  
等地域の特性が異なるため、  
小学校区での整備が適正か  
の検証は今後の課題。  
◆その他◆学校における施  
設整備について(扇風機・  
休憩室・インターホン)／  
学校教育予算について

## マルチメディア イージー図書の活用



野口 保信

今年7月から市立図書館  
で学習障がいの子どもにも有  
効といわれるマルチメディ  
アイージー図書の体験、貸  
し出しが始まった。多くの  
人に体験してもらい、障が  
いをもつ子どもの可能性を  
広げていく取り組みを期待  
するが、今後の活用方針は。

**答弁** 貸し出し等の利用  
をふやすことが急務。ホー  
ムページや市報、図書館内  
の掲示板等での広報活動を  
引き続き行う。また、一方  
で、対象者が限定されてい  
ることから直接的な案内等  
が効果的だと考えているた  
め、対象となる児童・生徒  
やその保護者、学校の先生  
等に対する説明会や実演会  
などの効果的な実施方法を、  
図書館から出向く「アウト  
リーチ」を含め関係者で検



佐賀市立図書館のマルチメディアイージー図書コーナー

討している。今後でもでき  
るだけ多くの方がこの図書に  
触れ、体験する機会をつく  
り、その利用促進を図る。  
◆その他◆文化振興基本計  
画の推進について／レセプ  
トデータ活用による医療費  
削減の取り組みについて

※1 マルチメディアイージー図書：パソコンを利用し、文字・音声・画像を同時に再生でき、読みの早さや画面上のレイアウト(文字の大きさ・色、背景色など)の変更ができる新しいメディアの図書。